

IRB番号「2022-GB-070」

研究課題名「膀胱子宮靱帯前層の血管走行に関する研究」

1. 研究の対象

西暦 2014 年12月から 2021 年12月までにがん研有明病院婦人科で子宮頸癌 FIGO stageIA2, IB1, IIA1 の診断でNo-look no-touch techniqueを用いた腹腔鏡下広汎子宮全摘術を行った方

2. 研究の目的・方法

早期子宮頸癌に対する標準手術は広汎子宮全摘出術である1,2)。その真価はA) 子宮傍結合組織をより広汎に摘出すること、そしてB) 膀胱子宮靱帯が前層/後層に分けられるという新概念により、膀胱-尿管コンパートメントを子宮-腔コンパートメントから完全に分けること、である。膀胱子宮靱帯の解剖理解および処理が手術において非常に重要である。

先行文献によると、膀胱子宮靱帯前層はCervicovesical vesselsと呼ばれる血管群と無血管野に分かれること3,4)、Cervicovesical vesselsの動脈の由来は上膀胱動脈であること4)、がわかってきている。しかし、その解剖知識を持っていたとしても、膀胱子宮靱帯前層の処理は難易度が高く、尿管周囲の細い血管を傷つけて出血をきたすことはよく経験する。膀胱子宮靱帯前層の解剖は既存の報告のみでは説明のできない小血管（静脈）が内在しており、その実態はよくわかっていない。膀胱子宮靱帯前層の血管走行に関して特徴を把握することは、出血量はたまた膀胱-尿管損傷の率を減らし、安全な手術を施行することに寄与するはずである。

子宮に関する静脈には浅子宮静脈と深子宮静脈が存在する。静脈の本数・走行のバリエーションは多岐にわたるが、先行文献によると以下3点が提唱されている。①浅子宮静脈は子宮動脈と伴走し尿管の腹側を通ること、また深子宮静脈は尿管の背側を通る、②膀胱から上膀胱静脈の形で浅子宮静脈と交通する（これを尿管の床と呼ぶ臨床家が多い）、③膀胱子宮靱帯後層は膀胱から基靱帯の深子宮静脈に流入する静脈と関連していること、である3-7)。臨床的もしくは発生学的見地から考えると、尿管によって区分される腹側/背側の関係に着目すると、浅子宮静脈（-上膀胱静脈）のパターンが膀胱子宮靱帯前層の小血管に関連している可能性がある。

今回我々は、手術動画レビューにより浅子宮静脈の走行パターンを記述する。また膀胱子宮靱帯前層の血管走行はたまた手技にどのように影響するのかを後方視的に検討する。

3. 研究期間

承認日 ～ 2022年12月31日

4. 研究に用いる試料・情報の種類

本研究に用いる下記の試料・情報につきましては、倫理審査委員会の承認を受けた研究計画書に従い、個人が特定されないように適切に匿名化処理を行った上で取り扱っています。

情報：

- ① 臨床所見（年齢、身長、体重、妊娠出産歴に関する情報、臨床病期、遺伝学的情報）
- ② 血液所見（CBC、白血球分画、腫瘍マーカー）
- ③ 病理学的所見（子宮細胞診所見、免疫組織学的所見）
- ④ 治療（手術時期、術後補助療法の有無と種類、周術期合併症の有無と程度）
- ⑤ 予後（再発の有無、再発の時期、再発部位、再発治療）
- ⑥ 画像診断（腫瘍径、病変の部位）
- ⑦ 手術所見（手術時間、出血量、手術内容：録画ビデオレビューによる血管走行確認）

お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

公益財団法人 がん研究会有明病院
〒135-8550東京都江東区有明三丁目8番31号
研究責任者 副医長 伏木 淳
連絡先：電話番号03-3520-0111(代表) FAX番号03-3520-0141